発信　十二月廿日午後十一時発

第百〇八号
政府ヨリ左ノ通電報命セラレ
当電百四十四号着手即チ左ノ通在仏国
日本公使及在独国日本公使ヘ訓令シ置ケリ
在仏国日本公使今般発行ノ英貨四分利公
債五千万磅ノ内倫敦紐育巴里及独乙国
ニ於テ内国債償還ノ為メ募集スル弐千五百
万磅ニ対スル ロスチャイルド 引受額壱千弐百万
磅ヘ手数料弐パーセントヲ引去本年十二月
割当日ヨリ十四日ヲ経テ三千九百二十三万四
千仏ノ二月七日三千十八万仏 三月十四日

日本銀行

三千十八万仏 四月十一日三千十八万仏
五月九日六千三十六万仏 五月三十日七千五百
四十五万仏 合計二億六千五百五十八万四千
仏ノ割合ヲ以テ払込ベキニ付貴官ハロスチャイ
ルドヨリ右払込金ヲ受取直ニ日本銀行勘
定トシテ ロスチャイルド（巴里）ヘ預ケ入其都度
之ヲ政府及日本銀行倫敦代理店ニ電報セラル
ベシ 巴里ロスチャイルド ト日本銀行倫敦代理店
ト勘定ヲ開クハ既ニ取計済右訓令ス
大臣
在独国日本公使今般発行ノ英貨四分利公債
五千万磅ノ内倫敦紐育巴里及独逸国ニ於テ
内国債整理償還ノ為メ募集スル二千五百万

債ニ對スル独逸銀行ヨリ引受額三百二十五万
債ハ手数料二分五厘明治三十九年一月一日
依利息二分引去リ一月十五日九百三十万
圓四千七百五十馬 三月一日 千百九十六万
三千二百五十馬 四月三日 千百九十六万三千
二百五十馬 五月廿五日 二千三百九十二万六千五百
馬合計 五千七百十五万七千七百五十馬ノ割
合ヲ以テ拂込ムヘキ旨來意ハ右拂込金受
取方等総テ當行ノ適手續ヲ践ミ是旨政
府ヘ電報セラルヘシ右訓令ス

日本銀行

発信　十一月卅日午后六時

第百九号

政府ヨリ左ノ通電報命セラル

今回募債ニ関シ非常ナル御尽力ノ結果

好成績ヲ奏シ茲ニ深厚ナル謝意ヲ表ス

英米佛独各シンヂケート其他関係諸人

ニモ政府ノ謝意ヲ傳達セラレヨ

大蔵大臣

日本銀行

発信　　　　　十二月六日午後二時

第百十号
政府ヨリ左ノ通電報有之候
英電第百四十七号四分利公債券入金
後已拂込方ノ件御照会ニ英局ヨリ井上ニ渡
ニ電報シ置タリ英電第百五十号ニ基ノ儀ハ
難シ自報ヲ乞フ

日本銀行

発信

十二月四日午前十一時三十分

第百十一号

政府ヨリ左ノ通電報アリタル

貴電第百三十八号落手独逸拂込金運用方及

正貨準備トシテ独貨及佛貨ヲ以テスルノ件異議

無之但英蘭銀行ヘ預入ノ正貨準備ト独貨

或ハ独乙若クハ佛貨ト交換ノ必要時

期ハ其時々申出ラルヘシ

日本銀行

公債募集ニ関スル諸説

一　今日ノ資金ヲ求ムルニハ国ノ内外ヲ問フヲ要セス只利率ノ高低ヲ唯一ノ標準トスヘシ故ニ今日若シ内地ヨリモ海外ニ於テ低利ノ資金ヲ求ムルヿヲ得バ何ゾ必スシモ内債タルヲ要セサルヘシ況ンヤ内債モ内地ニ於テ充分ノ成績ヲ挙ケ得ル条件ナラハ

二　殆ト全部海外ニ輸出セラレ高利ノ外債ヲ募リタルト同一ノ結果ヲ生スベケレバ寧ロ始メヨリ低利ノ外債

日本銀行

ヲ募集スルニ如カサルヘシ

二 先ツ第四第五回国庫債券ヲ償還シ市場ヲシテ一層緩慢ナラシメ金利低落ノ時機ヲ見テ貳億円ヲ数度ニ分割募集スルコト

三 第四、第五回国庫債券ノ償還ノ為メハ三月以後八月ニテ内地ニ於テ約七千萬円ノ資金ハ散布セラレ且一月ヨリ六七月ニテニハ軍資金ノ散布セラルヽ高ハ貳億円以上ニ達シ金融ハ一時非常ノ緩慢トナルヘシ 故ニ二月内ニハ

新規募集ノ公債ヲ発行シ散布
セラルゝ資金ヲ順次払込ミニ振替
ヘシメ過度ノ兌換券増発ヲ防キ
金融市場ヲ調理スヘシ而シテ
弐億円ハ一時ニ発行スルカ又ハ募
四、募五回国債ノ如ク同一ノ条件ヲ
以テ一二ケ月ノ間隔ヲ据置キテ
発行スルコト、

右ノ三種ノ説ニツキテ研究スルニ

第一説

~~我邦ノ現状ニ於テ~~資金ヲ求ムルニ利率
ノ高低ヲ唯一ノ標準トナシテ国ノ内外

日本銀行

ラ固フノ必要ナキフハ争フ可カラサルノ確論ナレヒ我国ノ現状ヲ見ルトキハ未遽ニ賛成スルフ能ハサルノ点ナキニアラズ殊ニ目下兌換券ノ発行高ハ非常ノ巨額ニ達シ昨年末ノ如キ三億弐千万円トシテ未曾有ノ高ニ上リ制限外発行亦其ノ跡ヲ絶タス多キトキハ七八千万円少ナキモ三千万円ヲ下ラス従テ物価益ヽ騰貴シ決シテ久シク此ノ儘ニ放棄シテ傍観スヘキノトキニアラス然ルニ第四第五回国債ハ三月ヨリ償還セラレ弐億円ノ内七千万円ハ内地ニ散布セラレ且ツ此後軍資金トシテ散布セラルヽ

高モ巨額ニ上ルヘケレバ兌換券ハ一層増発セラレ到底建金ヲ市場ヲ維持セシムルヿ能ハサルヘシ故ニ市場整理ノ為メニ目下内債ヲ募集スルノ必要アルナリ勿論内債ヲ募集シタリトテ外国人ノ之レニ應シ外国ニ輸出セラルヽヿアルヘキモ此回内地ニ於テ償還セラルヽ七千万円ハ内地ニ於テ新規募集ノ公債ニ振替ヘラレ内地人ノ手ニ帰シ海外ニ輸出セラレサルノ望ハ充分ナリ何トナレハ募四、募五、国債ハ昨年尚未償還ノ確定セサルトキニ外人ニ買入レノ為メニ九十八円以上ヲ唱ヘタルニモ拘ラス今日マテ所有シタルモノニシテ畢竟

日本銀行

公債ヲ手放サズ終ニコノ公債ヲ所有シ佐エリヨリモ其ノ利子ヲ目的トモスルモノト云フ可シ故ニ新規募集ノ公債ニシテ相当ノ条件ナラバ必ス振替ヘラル可シト信ズルモ決シテ根拠ナキモノト云フ可カラス況ンヤ旧公債ヲ新規募集ノ公債ニ振替ユルニ付テ相当ノ便宜ヲ與ヘンカ益大ノ振替ヲ見ルニ至ル可シ左スレバ蔵幾分ハ外国ニ輸出セラルヽトモ今日以上ノ兌換券ノ増発ヲ防クヿヲ得ルナリ

第二説

第四、第五回ノ国債ヲ償還シテ尚ホ一層市場ヲ緩慢ナラシメタル後ニ募集スレハ非常ノ好景況ヲ以テ発行スルコトヲ得ヘシトノ説ハ或ハ一種ノ方法ナランモ多大ノ危険ヲ包含スルト云ハサル可カラス三月ヨリ八月ニ掛ケテ内地ニ於テ七千萬円ノ国債償還ノ為メニ資金ヲ散布シ一方ニハ軍資金トシテ多大ノ支出アラハ果シテ金融ヲ緩慢ナラシムルコトヲ得ルカ或ハ為メニ事業熱ヲ誘引シテ却テ金融緊急劇ノ源因トナルコトナキカ大ニ疑ナキ能ハサルナリ

昨年八月講和条約ニ一頓挫ヲ来シタル以来ノ金融ヲ見ルニ八九月頃ヨリ公債ノ払込ノ終結シタルニ一方ニ軍資金ノ散布ハ外人ノ公債買入ハ外資輸入并市場ヲ緩慢ナラシメシ原因ハ輾轉ニ加ルニ事業尚未起ラサルヲ以テ日ヲ重ネ月ヲ経ルニ従ヒテ今日マデノ金利ハ漸次低落シタリ~~而シテ~~然ラバ事業ノ起ラサルハ永久的ニ継続スヘキカ今日ノ市場ノ趨勢ヨリ考フルトキハ久シカラスシテ新事業起ラサルヲ得サル可キナリ最近一ヶ月位ノ間ニ京阪地方ニ於テ新事業ノ計画ヲ耳ニスルコト彩シク此ノ有様ハ遂ニハ全国ニ傳播シ為メニ

資金ノ需要ヲ喚起スルモ遠キニアラサル可シト期待セラルヽ今日ニ於テ七千萬円ノ資金ヲ僅カニ半ケ年間ニ償還セバ火ニ油ヲ注キタルカ如ク却テ事業熱ヲ助ケテ緩慢ナラシメント希望シタル市場ハ却テ繁劇トナルニ至ルヘシ故ニ決シテ安全ノ策ト信セサルナリ

第三説

今日ノ場合ハ第三説ヲ最モ適當ノ策ト信スルナリ故ニ其ノ條件等ニ就テ考フル處ヲ述ベンニ

募集ノ時期

昨年九月頃ヨリ横外人ノ公債買入レ、年賦金ノ散布ノ為メニ金融市場ハ非常ノ緩慢トナリ事業尚未起ラス然レ氏近キ将来ニ於テ新事業ノ起ルヘキ徴候ナキニアラス故ニ今日ノ低利ヲ将来久シク継続スルコトハ充分ノ見込ナシ故ニ金利ノ当分低下シツヽアル今日ニ於テ公債ヲ発表スルハ時機ノ最モ適シタルモノト云フ可シ

当三月ヨリ八月マデニ第四第五回債ノ償還セラルヽ為メ七千萬円ノ兌換券増発ヲ来シ一月ヨリ六七月ノ頃マデニ軍資金トシテ日本銀行ヨリ借上ゲ其発行セラルヽモノ二億円アルトキハ今年ノ上半季末ニハ五億円以上ノ兌換券

ヲ甚行セサルヲ得サルコトトナリ遂ニハ兌換制度ニ危害ヲ及ホスニ至ルヘシ故ニ苟モ此等ノ散布ノ資金ヲ吸収スルノ目的ヲ以テ新起公債ヲ募集スルコトハ一ハ市場調理ノ為メ一ハ兌換制度擁護ノ為メニ最モ時様ニ適シタルモノト信スルナリ

新公債ノ人氣

戰時中ハ各國債モ一時ハ非常ニ下落セシモ外人ノ買進ミノ為メニ漸次昂騰シ一時ハ愛國公債トシテ所有シタルモノモ皆多大ノ利益ヲ占メタリ故ニ条件ニシテ相當ナラムカ新外人氣●進ムノ望ミナキニアラズ

日本銀行

又前述ノ如ク第四ノ第五回二億円ノ吸収地ニアル七千万円ノ所有者ヲ見ルニ一時九十八円以上ヲ唱ヘタルトキニモ尚売放タサリシ人ニシテ値上リ耳ヲ目的トセサルモノタルヲ知ルニ足ルナリ故ニ相当ノ条件ナラハ大部振替ヘラルヘキ望ミアリ又現金ニテ償還ヲ受クルモ売付ハ六朱以上ノ利廻リノ確実ナル株券ヲ見出スコト困難ナリ故ニ新旧公債ノ振替ニ就テ充分ノ便宜ヲ与フレバ大数ノ振替ヲ見ル可シ

然ラハ外人ノ所有スル一億三千万円ノ分ハ振替ヘラルルノ望ミアルヤ否ヤ仍済所有者ノ種類ノ如何ニ由ルコトニシテ全部当分外人ノ手ニ

アラハ其ノ時ノ状況ニテ全ク應募ナキモ斗リ
難キモ己ニ悪ク一ケ人ノ手ニ渡リタル以上ハ
多大ノ故障ナキ以上ハ条件ノ如何ニヨリテ
全ク應募ナキト見ルヘカラス
然併シ其ノ時ノ状況ニヨリテ外国人ノ應募
全クナキモノトスレバ如何ニ前述ノ如キ道及
以来ノ資金ノ散布ヲ見ルトキハ内地ニ於テ
全部募集ノ望ミナキニアラズ

条件

今回償還セラルヽ第四、第五、四回国債ノ内
一億円以上ハ外人ノ手ニ在ヲ以テ条件ヲ
定ムルニ従来ノ如ク内地ノ市場ホ場耳ヲ
標準トスヘカラズ其ノ標準ノ根據トナル

可ナキモノハ左ノ三ケノ条件ニアリ

一、倫敦ノ株式取引所ニ登録ノナキ整理公債ト相場ト（其ノ日ニテノ利子ヲ差引キタルモノ）

二、帝国五分利公債ノ内地ノ相場（其ノ日ニテノ利子ヲ引）

三 公債市価ノ将来ノ見込

今日ノ内地ノ公債ハ政府ノ買入ノ為メニ昇騰シタルモノナルハ[illegible]黨勘ニハ明ナル事実ナリ以テ条件ト定ケルニツキ帝国五分利ノ相場ハ一円位以下ト見做サヽル可カラズ

右ノ一、二ノ相場一円以下位ノ平均ヲ價格ナラヽカ

三ノ公債市價ノ将来ヲ考フルニ論功行

償ノ為メニ募集スル一億五千萬円ノ五分利公債ノ大多数ハ市場ニ顕ハレ一時ハ公債ノ時價下落スルコト明ニシテ到底些少ノ資金ヲ以テ之ノ市價ヲ引上ルコト能ハサルヘシ然レトモ減債基金法案ニシテ年々二千萬円以上ノ資金ヲ以テ公債市場ニ臨マハ二三年ノ後ニハ九十五六円以上ニ市場ヲ維持スルコトハ難キニアラサルヘシ

然レトモ若シ鉄道国有問題ニシテ通過シテ三四億円ノ公債募集セラレシカ到底二千萬円ノ減債基金ハ有効ナルコト能ハス公債ハ下落スヘシ故ニ将来公債ノ市價ハ左ノ二法案ノ運命如何ニアルヘシ

日本銀行

一減債基金

一鉄道国有

新公債発行ノ手数料

募四、募五回募集ノトキト同様ニ手数ノ
五タルヿニ之レヲ多額ナルハ契書アリ然レ氏
此度ハ戦時下ノ募債ト異ナリ国家ニ仰ヲ
公言スヘカラス故ニ銀行者ニ手数ノ手数
料ヲ與ヘテ手数ニ募債ニ努力セシムルノ
必要アリ故ニ従来ノ手数ノ五分ヲ減スヘカ
ラス

一所得税免除

戦時下一時ノ姑息手段トシテ所得税ハ

免除アラレタルモ此両ハ緩議スヘシ然レ氏従来ヨリ一層工夫ノ巧妙ヲ尽シ公債ニ特点ヲ與フル為メニ公債全部ニ對シテ所得税ヲ免除スルコトハ一良策ナラン乎只或モノハ免除シ或モノニハ賦課スルコトハ妙ナラズ

新公債ニ對スル日本銀行ノ態度

国庫債券ニ限リ最低日歩ヲ割引スルコトノ為メニ従来ノ担保付割引日歩ト商業手形ノ日歩トハ全ク位置ヲ異ニセリ故ニ従来ノ国庫債券ニ與ヘタル如キ特点ヲ與ヘニトセハ日本銀行ノ日歩ノ定メ方ヲ改正スルノ必要措ナカル可カラズ帯抄

日本銀行

然レ𪜈担保價格ハ従来ノ公債ヨリ一層高キニ至リシハ公債全般ニ對スル策トシテハ敢テ妨ケナキカ如シ

明治三十八年自一月至十月外國貿易ニ於ケル軍用關係ノ輸入

輸出品價額	二五三、六九七、四〇八円
輸入品價額	四二二、四五五、三〇九
内 軍用關係輸入推定額	一三一、九六九、六七三
合計	六七六、一五二、七一七
輸入超過額	一六八、七五七、九〇一
軍用關係ノ輸入額ヲ控除セハ輸入超過額	三六、七八八、二二八

軍用関係輸入推定額内譯

品目	三十八年輸入額	内 常用推定額	内 軍用推定額
雙眼鏡及望遠鏡	一六六、四一六円	八〇、七六〇円	八五、六五六円
潜水器及同部分品	六七、九一六	一七、六八八	五〇、二二八
醫療器	二〇五、九七〇	一四八、五八二	五七、三八八
鐵道機関車	二、二三四、八一五	四四六、九六三	一、七八七、八五二
鐵道貨車及全部分品	一、六八一、一五四	三三六、二三一	一、三四四、九二三
穿孔機	三七一、一二二	一四七、七七六	二二三、三四六
鋸木機	一三三、五七四	六二、五五五	七一、〇一九
旋盤	三、一五六、三五二	三二四、八一九	二、八三一、五三三
其他金屬工及木工機	二、一三八、五〇二	三九六、九六〇	一、七四一、五四二
縫衣機	五〇八、二二七	一九八、三六三	三〇九、八六四
綿布製織機	三二八、九八五	四七、一一九	二八一、八六六
滊鑵及滊機	二、二五一、五二六	一、〇九七、八三四	一、一五三、六九二

乳膏	一、三五一、〇一四	六七五、二九五	六七五、七一九
麦粉	七、四九六、二一五	三、五六〇、三九一	三、九三五、八二四
鑵詰食物	六七八、二三七	一二〇、〇〇〇	五五八、二三七
毛及綿メリヤスシャツ	三九七、四五八	一八七、二九六	二一〇、一六二
各種藥品	二、八一二、二八八	一、五三八、六〇二	一、二七三、六八六
米	四三、三六一、五〇六	二六、一三〇、一九六	一七、二三一、三一〇
小麦	二、〇八九、五九〇	一、一二三、六五二	九六五、九三八
毛皮	一、一六二、一一一	四六、三七〇	一、一一五、七四一
牛皮及水牛皮	一、八六六、七六四	五八四、九五三	一、二八一、八一一
靴底皮	七、八四四、六七九	四七九、三〇一	七、三六五、三七八
其他ノ諸熟皮	五、〇八七、四〇一	六八二、九七四	四、四〇四、四二七
鐵 塊	四、七七二、一三三	一、〇一六、七二四	三、七五五、四〇九
鐵 條及竿	六、〇〇五、九二八	三、〇六一、二五八	二、九四四、六七〇
鐵 箍及帶	一四九、一五六	四五、三三二	一〇三、八二四
鐵 板	七、六二九、八九〇	三、六八六、二〇六	三、九四二、六八四

他ノ諸熟鐵軟鋼	一、三七八、七二四円	七二二、〇四五円	六五六、六七九円
筒及管鐵	一、八二八、〇六二	一、二八二、一二八	五四五、九三四
釘	二、一八一、七〇〇	一、二五五、七一二	九二五、九八八
螺旋釘、牝牡螺旋釘	六四八、二〇九	二二五、九〇九	四二二、三〇〇
葉鐵及葉鋼	四、五九〇、七三五	七五八、〇〇六	三、八三二、七二九
鐵線及細竿	四三〇、六三三	二五九、五〇二	一七一、一三一
電線	九九四、八八〇	六〇五、一八五	三八九、六九五
條、竿及板鋼	一、九四二、四八五	五二一、八八四	一、四二〇、六〇一
線索	三四六、七二〇	七三、四一五	二七三、三〇五
アルミニューム	一、〇四一、九〇七	九〇、八一七	九五一、〇九〇
荒銅	一、八九七、二二九	五七、三〇五	一、八三九、九二四
管銅	五一二、四一六	二〇七、七三五	三〇四、六八一
管真鍮	三六五、一八五	一五五、八六七	二〇九、三一八
鉛	一、〇八二、八二八	五二七、八七六	五五四、九五二
ニッケル	七二六、八一五	二一〇、七八九	五一六、〇二六

錫	一、四六三、〇三四	四五六、八六一	一、〇〇六、一七三
亜鉛	一、八八三、九九一	四九三、八〇〇	一、三九〇、一九一
繰綿及生綿	九七、四二〇、三七六	八七、七八二、九九五	九、六三七、三八一
雲齋布	一、〇〇八、一二六	八九、一六五	九一八、九六一
綿帆布	一、六八〇、九四七	七六、四〇五	一、六〇四、五四二
生金巾	四、九二四、一四八	三、五二一、六二四	一、四〇二、五二四
晒金巾	一、三八九、七三八	六三八、六四一	七五一、〇九七
羊毛	七、二二三、八四八	三、〇七三、七八二	四、一五〇、〇六六
毛絲	四、七五四、六三三	八二七、二五一	三、九二七、三八二
羅紗	九、九九八、二四五	一、八四四、三九五	八、一五三、八五〇
綿入り羅紗	四、二二五、二八三	九四四、七六三	三、二八〇、五二〇
ブランケット	四、〇八一、三三四	一一〇、九八六	三、九七〇、三四八
苧麻	二、八一四、六八二	一、二一八、八二四	一、五九五、八五八
麻帆布	二、一九一、九二八	六、〇〇〇	二、一八五、九二八
石炭	五、四五九、六五四	—	五、四五九、六五四

焦炭	六九二、〇六五円	三〇、〇〇〇円	六六二、〇六五円
チーキ材	五〇八、〇七五	二二六、九二二	二八一、一五三
海底及地下電線	二、五六九、一六八	二七八、九六七	二、二九〇、二〇一
漁船	七、五八八、六九六	一、〇〇五、九九九	六、五八二、六九七
計	二八七、七九五、四二八	一五五、八二五、七五五	一三一、九六九、六七三

算出法并其理由

雙眼鏡及望遠鏡、此種商品ハ年ニ由リ多少ノ増減アリト雖モ昨今両年ノ如ク甚シキ増加ヲ示セシコトナシ故ニ右両年ノ増加ハ軍用ノ為メト云ハサルヘカラス由テ戦前三ケ年間ノ平均ヲ本年ノ常用額ト見做セリ

潜水器、同部分品、及醫療器、戦争前ニ於テハ年々少額宛ノ増加ヲ示セシモ昨年ニ至リ少シク減少ヲ示シ本年ニ至

リ大ニ増加ヲ示セリ是レ全ク開戦ノ當初ニハ常用ノ需要減退セシモ戦時ノ需要ハ未タ多カラス而シテ昨年末ヨリ本年ニ入リ俄ニ需要ヲ増加セシカ為メナルヲ以テ本年ノ常用額ハ昨年ノ輸入額ト大差ナキモノトシテ計算セリ

機関車貨車及同部分品。　軍用ニ徴発セラレタルモノヲ補充スル為メト軍隊及軍需品輸送トノ為メニ輸入セシモノナルヲ以テ殆ト全部軍用ト見做スヘキモノトス然リト雖モ年々在来ノ老朽車補充ノ必要アルヲ以テ輸入額ノ約二割ヲ見込ミ之ヲ差引ケリ

穿孔機及鋸木機。　此種機械ノ昨今両年ニ於テ増加セシハ陸海軍ノ造兵廠及戦争ニ関聯セル諸工業ノ需要ニ基クモノナリ由テ戦前三ヶ年ノ平均ヲ常用額ト見做シ其以上ヲ軍用トナセリ

旋盤、其他ノ金属工及木工機。　同前

縫衣機、年々二三萬圓宛ノ増加ヲ示セシモ戦時ニ於ケル此種機械ノ常用額ハ戦前ヨリモ増加セリト云フヘカラス由テ開戦前ナル三十六年度ノ輸入額ヲ以テ本年ノ常用額ト推定セリ

綿布製織機、三十四年ニ於テハ前年ノ註文ニ係ルモノノ續々着荷セシカ故ニ其額俄ニ増加セシヲ以テ之ヲ例外トシ三十五、六両年ノ平均ヲ常用額ト見做セリ

汽罐及汽機、此種ノ増加ハ幾分電氣業ノ發達ニ基ケリト雖モ其大部分ハ軍用品製造ノ為メナルヲ以テ戦前三ケ年ノ平均ヲ常用ト見做シ其餘ノ二割ヲ電氣業ノ發達ニ歸シ其他ヲ軍用ト推定セリ

乳膏、年々輸入増加ノ傾向アリシモ開戦以来一般ノ需要減少セシヲ以テ増加率ヲ加ヘス三ケ年平均ヲ常用額ト見做セリ

麦粉、三十六年ハ前年米不作ニシ同年ノ麦亦不作ナリシ

ヲ以テ輸入大ニ増加セシカ故ニ同年ハ之ヲ省キ三十四及五両年ノ平均額ニ年々ノ増加率ヲ加ヘタルモノヲ以テ平作ニ於ケル本年ノ常用額トナスヲ當然トス然ルニ本年ハ不作ナリシヲ以テ之カ為メニ需要ヲ増加セシヤ必セリ由テ右平作ニ於ケル本年ノ常用額ニ凶作ノ為メノ需要増加額ヲ加ヘ之ヲ輸入總額ヨリ差引キ其餘ヲ軍用ト推定スルヲ以テ其當ヲ得タルモノト云フヘシ今其算法ヲ詳説スレハ左ノ如シ

三十四及五両年ノ平均輸入額	二、三八一、二七四
消費増加額（年三十万乃至三十五万ノ増加）	八〇〇、〇〇〇
平作ニ於ケル本年ノ常用推定額	三、一八一、二七四
本年九、十両月ノ輸入額	一、〇一五、三七一
平作ニ於ケル右両月ノ輸入推定額	六三六、二五五
差引凶作為メノ輸入推定額	三七九、一一六

本年ノ輸入總額　七、四九六、二一五円

本年ノ常用推定額　三、五六〇、三九一

差引軍用推定額　三、九三五、八二四

鑵詰食物。戰爭以前ノ輸入額ハ毎年十五萬圓ヲ出テサリシヲ以テ十月迄ノ常用輸入額ヲ假リニ十二萬圓ト見做シ其他ヲ軍用ト推定セリ

毛及綿メリヤス、シャツ。三ヶ年平均ヲ常用ト見做セリ

各種藥品。本項ノ藥品ハ軍用トシテ買上アリシモノハミナルヲ以テ其輸入増加ハ軍用ノ為メトス由テ常用額ハ三ヶ年平均ニ據レリ

米。七月以後ハ軍用トシテ米麦ノ買上ナカリシカ如キヲ以テ本年上半期分ノ軍用ヲ算スル際算出セシ高ト大差ナキモノヽ如シ由テ之ニ依ルコトヽナセリ
昨年ノ米作ハ未曾有ノ豊稔ニシテ近キ類例ナキヲ以テ前年度軍用額ヲ算スルニ當リ用ヒタル方法ヲ用ユ、

ル能ハス何トナレハ本年ノ輸入外國米ハ軍用ニ徴發セラレタル麦ノ補充ヲナセシニ過キサルト非常ニ豊穣ノ結果持越高ヲ卸除スルニアラスンハ軍用額ヲ見ルコト能ハサレハナリ由テ左ノ如キ方法ヲ用ヒタリ

三十六年度米収穫高	四六、四七三、二九八石
三十七年ノ輸出額	三〇八、四三九
三十七年中軍用買上高	一、二九五、〇〇〇
右二項差引残即昨年度内國米供給高	四四、八六九、八五九

當業者ノ説ニ據レハ本年度ニ入リテハ前年度ノ内國米持越高ハ殆ト算スルニ足ラサル少額ナリシト云フ果シテ然ラハ昨年ノ内國米常用額ハ四千四百八十六萬石餘ナルヲ知ルヘシ假リニ本年ノ内國米常用額モ昨年ト大差ナキモノトスレハ

昨年ノ米収穫高	五一、四三〇、二二一石
本年度内國米常用必要額	四四、八六九、八五九

差引次年ヘ持越高　六、五六〇、三六二四

由テ本年上半期ノ米麦需給高ハ左ノ如クナルヘシ

内國米供給高（持越高ヲ除）	二二、四三四、九二九石
麦供給高（産額ノ二分ノ一）	六、四〇〇、〇〇〇
外國米供給高（輸入額ノ五分ノ三其餘ハ持越高）	二、三三一、四八六
米麦供給總高	三一、一六六、四一五

三十五年ハ前年ニ於テ近年稀ナル豊作ノ年ヲ控ヘシ年ナルヲ以テ本年ノ消費率ヲ同年ニ大差ナキモノト推定スルモ敢テ不都合ナキモノヽ如シ又人口ハ三十六年末ノ数ニ據リ其増加員数ハ出征軍人数ト略ゞ同シキモノトナシ算スレハ左ノ如シ

三十五年ノ米麦消費率一人ニ付	一・二六二石
本年ノ推定人口	四六、七三二、八四一人
一ケ年間ノ常用消費推定額	五八、九七六、八四五石

本年上半期间ノ米麦供給推定額	三一、一六六、四一五石
仝　米麦常用消費推定額	二九、四八八、四二二
差引軍用推定額	一、六七七、九九三
右代金（一石十円廿六銭九厘換）	一七、二三一、三一〇円

（備考）

麦ハ米ニ對スル搗減ノ差ヲ二割ト假定シ算出セリ

小麦。戦争以前ノ輸入額ハ凶作ノ年ヲ除ケハ毎月至テ少額ナリシニ本年ハ年初以来毎月巨額ノ輸入ヲ見シハ軍用ノ為メト云ハサルヘカラス又凶作ノ年モ其輸入額ヲ増加スルハ六月以降ナルカ故ニ本年凶作ノ影響ヲ蒙ルハ六月以降ト見ルヲ當然トス而シテ其以後多少軍用ノ影響アリトスルモ六月以前課税見越ノ為メ輸入セラレタルモノアルヲ以テ之ニテ差引クモノト見做シ戦前三ヶ年ニ於ケル右一月ヨリ五月ニ至ル间ノ輸入平均額ヲ本年ノ常用額ト推定シ本年ノ一月ヨ

リ五月迄ノ輸入額ヨリ差引キ其餘ヲ軍用ト見做セリ

即チ

三十四－六年一月－五月輸入平均額	二四四、三七二	円
三十八年一月－五月輸入額	一、二一〇、三一〇	
差引軍用額	九六五、九三八	

毛皮、牛皮、水牛皮、靴底皮、及其他諸熟皮、　此種商品ノ輸入額ハ毎年殆ト一定シ多少増加ヲ示スモノアルモ其額一萬圓ヲ出テス然ルニ昨今両年ニ至リ非常ナル増加ヲ示セシハ全ク軍用ノ為メトス由テ三ヶ年平均ヲ常用ト推定セリ

塊條竿雑、板鐵、及其他ノ熟鐵并軟鋼、　此ノ中板鐵ハ屋根用其他細工用トシテ年々輸入額ヲ増加セシモ開戦後軍用外ノ需要ハ大ニ減退セシヲ以テ其他ノモノト同シク三ヶ年ノ平均ヲ常用額ト見做セリ

筒及管鐵、　毎年増減ナキヲ以テ本年ノ常用ハ戦前三年

ノ平均ヨリ推定スルノ外ナシ

鐵釘、螺旋釘、牝牡螺旋釘。　同前

葉鐵、葉鋼、鐵線、細竿鐵、及電線。　同前

條竿、及板鋼。　同前

線索。　年々四五萬圓宛ノ減少ヲ示セルヲ以テ三十六年ノ輸入額ヨリ減少率八萬圓ヲ扣除シ本年ノ常用ト見做セリ

アルミニユーム、及荒銅。　開戦前ノ輸入ハ殆ト数フルニ足ラサリシニ開戦後大ニ増加セシハ全ク軍用ノ為メト云ハサルヘカラス而カモ三十四年以前ハ貿易年表中独立ノ項目ナキヲ以テ三十五及六両年ノ平均ヲ常用ト見做セリ

管眞鍮及管銅。　年々多少ノ増減アリシモ其変動多カラサリシニ開戦後俄ニ増加セシハ軍用ノ為メトス由テ三ケ年ノ平均ヲ常用ト見做セリ

鉛、ニッケル、及錫、　同　前

亜鉛、輸出向眞鍮製造ノ為メ毎年増加ヲ示セルヲ以テ三十五、六両年ノ増加平均額七萬圓宛ノ増加アルモノト見做シ本年ノ常用額ハ三十六年ノ輸入額ニ右ノ増加率即チ十四萬圓ヲ加ヘタルモノトナセリ

繰綿、　年ニ由リ消長甚シキヲ以テ平年ノ棉花需要高ヲ算スルハ頗ル困難ナリ然リト雖モ本年ノ綿絲及綿布ノ需要高ハ開戦前三ケ年ノ平均ニ略、均シキカ如キヲ以テ下ノ如キ方法ニ由リ軍用額ヲ算出セリ即チ本年ノ棉花消費額ヨリ戦争前三ケ年間ニ於ケル棉花平均消費高ヲ差引キ更ニ本年ノ綿絲輸出高ニ要スル棉花消費高ヲ算シ之ヨリ戦争前三ケ年間ノ平均綿絲輸出高ニ要スル棉花ヲ卸除シ其残高ノ消費差額ヨリ差引キ其残高ヲ軍用ト見做セリ今其算法ヲ詳示スレハ左ノ如シ

三十八年棉花消費高（十ケ月間）　二、六五九、三〇八担

戰爭前三ヶ年間平均消費高（仝前）	二、二〇七、一四七
差引本年増	四五二、一六一
三十八年綿糸輸出額（十ヶ月間）	二一七、一五六梱
戰爭前三ヶ年間平均輸出額（仝前）	一九三、七三三
差引本年増	二三、四二三
一梱ノ綿絲ニハ棉花約三百六十斤ヲ要スルヲ以テ右輸出綿絲ヲ棉花ニ換算スレハ	八四、三二二担
本年ノ棉花消費増加額	四五二、一六一担
綿絲輸出増加ニ要スル棉花額	八四、三二二
差引殘即チ推定常用外消費額	三六七、八三九
右代金（輸入棉花平均担ニ付二十六円二十銭ニ當ル）	九、六三七、三八一円

由テ同額ヲ軍用ト推定セリ

（備考）此算法ハ昨年及本年上半期ノ軍用額ヲ推定スルニ用ヒタルモノヨリモ一層正確ニ近キモノト信スルヲ以テ茲ニ之ヲ改メタリ而

シテ本算法ニ由リ昨年ノ綿花軍用額ヲ算スレハ七百八十五萬千七百圓トナリ（前ノ算法ニ由ルモノハ五百四十七萬六千餘圓ナリ）從テ昨年中ノ軍用推定總額ハ一億九百八十六萬一千圓トナルナリ（前ニハ一億七百四十八萬六千圓トナセリ）

雲齋布及綿帆布、年々多少ノ増減アルモ其額多カラス由テ三年平均ヲ常用額ト見做セリ

生及晒金巾、近年内地ノ製造額増加セシヲ以テ減少ノ傾向ヲ示セルモ年ニ由リ甚シキ増減アルヲ以テ三十六年ノ輸入額ヲ常用ト見做セリ

羊毛、毛絲、羅紗、ブランケット、及苧麻、等ノ輸入増加ハ全ク軍用ノ為メトス由テ三ヶ年平均以外ハ悉ク之ヲ軍用ト見做セリ

麻帆布、年々減少ヲ示セルヲ以テ其減少率ヲ以テスルトキハ本年ノ常用額ハ六七千圓ヲ出テサルヘシ由テ假リニ六千圓ヲ常用額ト見做セリ

石炭、

輸入炭ハ殆ト全部英國炭ニシテ海軍用ニ属スルモノナリ多少ノ米炭ナキニアラサルモ其品質良好ニシテ陸海軍用ナルヲ以テ全部軍用ト見做セリ

焦炭、

年々減少ヲ示セルヲ以テ其割合ニテ減少スルモノトシ本年ノ常用額ヲ三萬圓ト推定セリ

チーキ材、

著シキ増加ハ本年ニ於テ初メテ之ヲ見シヲ以テ三ヶ年ノ平均ヲ常用ト見做セリ

海底及地下電線、

著シキ増加ヲ示セシハ開戦後ノ現象ナルヲ以テ三ヶ年平均ヲ常用ト見做セリ

汽船、

仝　前

國際手形ニ関スル調査

ジョハンセン氏ノ國際手形ニ関スル計算ヲ摘録スレバ左ノ如シ

造幣平價（我千四）	四九八.弗五〇仙
正貨輸送点	四九二.五〇
國際手形定價	四九六.〇〇
右輸送費（保険料及利子）	二.五〇
差引國際手形利益	一.〇〇

右ノ計算ヲ精査スルニ平價ニ於テハ甚シキ相違ヲ見ザルモ正貨輸送点ニ於テハ頗ル懸隔アルモノヽ如シ由テ手形ノ定價ハ氏ノ所説ヨリモ遥ニ高位ニ定メザルベカラズ即チ左ノ如シ

日本銀行

本行調査

造幣平價	四九八.弗四四九
正貨輸送点	四九六.三三六
國際手形輸送費	二.〇九三
國際手形平價	四九八.四二九以上

備考

手形輸送費中ニハ利子、郵税及書留料ヲ加算シ郵税ハ手形ヲ平均十圓券ト見做

シ其重量ハ略我五圓券ニ均シキモノト
推定セリ利子ハ紐育ノ金利平均年三歩
手形輸送期間二十日ト假定シ書留料ハ
十仙ト算セルモノナリ

日本銀行

本月十八日ノ東京日々新聞「金融の前途」ナル論説中近時金融緊縮ノ原因トシテ左ノ個條ヲ列擧ス

(一) 輸入貨物ノ停滞

(二) 租税及公債拂込

(三) 綿絲綿布ノ賣行頓挫

(四) 株式市場ノ好況

(五) 軍需品及日用品ノ騰貴

(六) 夏物仕入資金ノ増加

(七) 年度替ニ於ケル軍需品買上代金仕拂ノ遅滞

右事實ノ有無ヲ調査スルニ左ノ如シ

(一) 輸入貨物停滯ノ有無

近時輸入貨物ハ停滯ヲ来シ居レルモノヽ如シ今昨年十二月以降各月末ニ於ケル横濱官設保税倉庫ト中央倉庫ノ在荷高ヲ見ルニ左ノ如シ

月次	官設保税倉庫	中央倉庫
昨年十二月末	一二二、八四〇円	三、三七六、四二九円
本年一月末	一九六、九三八	四、〇二九、〇七四
仝 二月末	二九六、四〇六	六、七八四、二〇四
仝 三月末	二九八、七九五	七、四九四、七〇五

仝　四月末	三〇三、九二二	六、八四四、二八四

(二) 租税及公債拂込金増加ノ有無

昨年十二月本行ノ金利引上以後ニ於ケル租税并ニ公債及諸會社ノ募集金ヲ見ルニ去ル四月ヲ除クノ外着々増加セルヲ見ル即チ左ノ如シ

昨年十二月	一三、六三二、三五九四
本年一月	三〇、二七二、〇三六
仝　二月	五一、二二五、九七二
仝　三月	六六、四五九、二五
仝　四月	三五、六六八、二一三

本年五月　六三、三六七、〇二四円

(三) 綿絲綿布ノ賣行頓挫ノ有無

綿糸ノ外國ニ對スル賣行ハ多少不況ノ事實アルモノヽ如シ即チ一月以降各月ノ輸出額ヲ見ルニ左ノ如シ

月次	産出高	輸出額
昨年十二月	六八、三四一梱	一一、八八二梱
本年一月	六九、五一五	二七、一三九仝
仝　二月	七〇、二九九	二四、八五一
仝　三月	七八、一三四仝	二五、六〇六仝
仝　四月	七八、〇〇〇	二二、五九五仝

東京市内ニ存スル三井、東京ノ二倉庫ニ於ケル糸類ノ

東京市内ニ存スル三井、東京ノ二倉庫ニ於ケル糸類ノ各月末在荷高モ亦左ノ如シ

昨年十二月末	一七九、〇二四
本年一月末	二〇〇、九八九
仝　二月末	二五七、一七七
仝　三月末	二九九、四六六
仝　四月末	二五六、七二三

右ノ如ク産出高及在荷高ハ増加シ輸出高ハ減少スルヲ以テ不況ノ観アルトハ云ヘ内地ノ需要ハ中々盛ニシテ綿糸界ハ概シテ好況ナリト云フベシ

仝　四月　七八、〇〇〇　二二、五九五

又綿布ニ関シテハ賣行頓挫ハ事實ナルモ之ガ為メ在荷潤澤セルガ如キコトナキモノヽ如シ

三越呉服店取締役藤村喜七氏ノ談ニ據レバ賣行頓挫ハ昨今夏物仕入ノ一先ヅ終ヲ告ゲシガ為メナリ例年夏物ノ仕入ハ三月下旬ヨリ五月上旬頃迄ヲ以テ季節トス本年ハ氣候ノ後レタル為メ多少遅レタリト雖モ已ニ其仕入ハ終ヲ告ゲシヲ以テ綿布類ノ如キ其市價少シク下落セシモ未ダ之ヲ以テ在荷停滞ト云フベカラズ軍用トシテ昨年来綿布ノ買上高ハ頗ル多額ニ上リ其供給多カラザルニ當リ本年ノ仕入ハ昨年ヨリ多

カリシヲ以テ殆ント已ニ拂底セルモノアリ故ニ一時

リ其供給多カラザルニ當リ本年ノ仕入ハ昨年ヨリ多

カリシヲ以テ殆ント已ニ拂底セルモノアリ故ニ一時ノ賣行杜絶ノ為メ恐ラク未ダ在荷ノ潤澤ヲ来サヾルベシト

(四)株式市場好況ノ有無

十二月以後ニ於ケル東京大阪兩取引所ノ毎月ノ取引高ヲ見ルニ近頃左ノ如ク増加ヲ示セリ

	東京 定期	東京 直	大阪 定期	大阪 直
昨年十二月	二四六、〇六〇株	九七、三三〇株	八〇、六九九株	二、三三〇株
本年一月	二五六、一九〇	七三、二二〇	九七、五六五	四、〇三〇
仝二月	三六七、二二〇	一〇〇、一七〇	一八〇、〇二五	五、三八〇

本年三月	五四六、四一〇株	一五四、一一〇株	二九一、〇八五株	三一、四三〇株
仝　四月	四七四、二〇〇	一一四、二九〇	二八六、九七〇	二四、七二〇

毎月ノ出来高ノミナラズ各月末ノ受渡高モ亦左ノ如キ増加ヲ示セリ

	東京	大阪
昨年十二月	二四六、〇六〇株	八〇、六九九株
本年一月	二五六、一九〇	九七、五六五
仝　二月	三六七、二二〇	一八〇、〇二五
仝　三月	五四六、四一〇	二九一、〇八五
仝　四月	四七四、二〇〇	二八六、九七〇

(五) 軍需品及日用品騰貴ノ有無

（五）軍需品及日用品騰貴ノ有無

本行ノ調査セル物價表ニ據レバ軍用品ノ騰貴ハ事實ナルモ日用品ハ却ッテ下落ヲ示セリ即チ左ノ如シ

軍用品（三十七年一月ヲ百トス）

品名	昨年十二月	本年一月	仝二月	仝三月	仝四月
大麦	九八	一〇一	一〇四	一〇七	一〇七
白木綿	一二六	一一七	一二二	一二三	一二四
麻	一〇八	一一二	一一四	一一六	一三七
石炭	一一九	一一八	一二〇	一二〇	一二四
銅	一二六	一二九	一二八	一二七	一二八

小麦粉	一一三	一一一	一一一	一一三	一一四
金巾	一二八	一三〇	一三二	一三二	一三二
皮革類	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇五
鐵	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
平均	一一三・五	一一三・四	一一五	一一五・七	一一九・四

日用品

品名	昨年十二月	本年一月	仝二月	仝三月	仝四月
米	一〇五	九九	九七	九六	九四
塩	一四三	一三一	一二五	一四三	一三一

味噌	九四	九〇	八七	八七	八七

味噌	九四	九〇	八七	八七	八七
醤油	九三	九二	九四	九八	九七
鰹節	九六	九五	九六	一〇二	一〇六
鶏卵	一二四	一二七	一一一	一〇三	一〇九
日本酒	一〇四	一〇六	一〇六	一〇七	一〇八
油	一〇一	九六	九六	九六	九八
刻莨	一三一	一三一	一二五	一二一	一一六
炭	一一五	一一三	一二三	一一三	一一〇
薪	九一	九一	九一	九五	九五
製茶	一〇二	一〇四	一〇七	一〇九	一一〇

塩	一四三	一三一	一二五	一四三	一三一

燐寸	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五
砂糖	一六一	一五三	一四八	一四六	一四四
石油	九八	九四	九三	九二	九二
平均	一一〇・八	一〇八・四	一〇六・八	一〇七・六	一〇六・八

(六)夏物仕入資金増加ノ有無

前記藤村氏ノ談ニ由レバ本年夏物ノ仕入高ハ概シテ昨年ヨリモ約二割方ノ増加ニシテ三十六年ニ比シテ大差ナカルベシト云フ

又東京市ニ於テ呉服太物商ノ機関銀行トシテ知ラレタル東京銀行ノ本年一月以降各月末ノ貸出高ヲ見ル

又東京市ニ於テ呉服太物商ノ機関銀行トシテ知ラレ

タル東京銀行ノ本年一月以降各月末ノ貸出高ヲ見ルニ左ノ如ク増加ヲ示セリ

一月末	四、九八一、七六五円
二月末	五、〇〇八、一二三
三月末 (中略)	五、一九三、四六七
四月末	五、三一七、二〇七

之ヲ以テ他ヲ推セバ夏物仕入ノ為メ資金需要ノ増加セルモ亦事實トス

(七) 年度替ニ於ケル軍需品買上代金仕拂遅滞ノ有無

是ハ統計ノ徵スベキモノナキモ事實ハ全ク之無キニアラザルガ如ク本月十日付東京興信所ノ報告中鐵工者ノ困難ト云ヘル題目ノ下ニ左ノ如ク記セリ

昨年来市内及埼玉縣川口町ニ於ケル相當ノ機械鑄物工場ハ何レモ砲兵工廠ヨリ砲彈、信管等軍用品ノ製造ヲ命ゼラレ（中略）其代金中ノ幾分ハ本年二月頃ニ内渡ヲ受ケタルモ其殘額及二月以降ニ納メタル代金ハ今日ニ至ルモ未ダ交付ヲ受クル能ハズ（中略）右代金下渡ノ遲延セル理由ハ四月以降政府ノ會計年度替ニテ種々取調ヲ要スルガ為メナルヤニ聞ク

云々

右ノ如ク東京日々新聞ニ金融繁忙ノ原因トシテ列記スル所ハ孰レモ事實ニ相違ナキガ如シ然レドモ此ノ事實ハ果シテ今後當分永續スベキモノナルカ或ハ單ニ一時ニ止ルモノナルカハ疑問ニ屬セリ假令ハ輸入貨物中最多額ヲ占ムル棉花ノ如キハ綿糸ノ好況ナルニ反シ其ノ相場低廉ナルヲ以テ見越輸入モ亦少カラサルカ如ク一月以來五月上旬迄ニ既ニ略ミ五千萬圓ヲ輸入シ之ニ前年十月以後三ヶ月間ノ輸入高貳千七百萬圓ヲ加フレハ既ニ七千七萬圓ニ上レリサレハ假令軍

日本銀行

用トシテ綿布類ノ需要多シトスルモ今後ノ棉花輸入高ハ多少減少ニ赴クコトナカランカ又外米ハ七月以降一割五分ノ新税ヲ賦課セラルヽコトヽテ同シク見越輸入少カラサル如クナレハ是亦久シカラスシテ其ノ輸入高ヲ減少スルコト無カランカ又綿糸綿布ノ頓挫ハ夏物仕入ノ一段落ヲ告ケタルカ為メニシテ軍用トシテハ尚其ノ需要ヲ継續スヘケレハ是亦一時ノ現象ニ止マラサルカ其他夏物仕入資金ノ増加ト云七年度替ニ於ケル軍需品買上代金仕拂ノ遲滞ト云ヒ皆一時的ノ現象ニアラサルハナシ又爰ニハ列擧セサルモ

内國米價格割安ノ為メ農家持米ヲ賣惜ミテ之ヲ貯藏

内國米價格割安ノ為メ農家持米ヲ賣惜ミテ之ヲ貯藏シ為ニ地方ノ金融不融通ヲ来シ預金ノ取付或ハ借入金等ニ依リ市場ノ資金ヲ吸收スルコト亦明ニ従来金融引締ノ一原因ナルガ追々入梅ノ季節ニ向フニ従ヒ是等ノ貯米モ漸次市場ニ出テ、地方ノ金融ヲ緩和スルニ至ルヘシ故ニ金融ノ前途ヲ豫想スルニハ是等ノ事点亦参考スヘキ所ナリトス

本年十月七日發兌ノ「グローブ」新聞紙上ニ左ノ記事アリ

日本ノ財政上ノ負担ニ関スル大隈伯ノ演説ノ米國ニ於ケル反響　（紐育通信）

日本政府ノ内閣總理大臣及大藏大臣ノ東京ニ於テ為シタル演説ノ電文當市ニ傳ハルヤ流石大統領ノ選挙ニ熱中シテ他ヲ顧ミル暇ナキ世間モ漸ク之ニ向ツテ幾分ノ注意ヲ傾ツニ至リタリ今其演説ノ内容ヲ査察スルニ二者共ニ心氣銷沈ノ意ヲ淺セルヲ認ム去レバ日本ガ當初大ニ自ラ恃ム所アリテ戰爭ヲ開始セシ氣勢モ今日ニ及ンデ大ニ弛緩ノ狀ヲ呈スルニ至レルヤ明ナリ是レ旅順口ニ於テ蒙リタル損害ノ莫大ナルト又其大要塞ノ奪取捗々敷進行セザルノ結果ナルベシ而シテ今ヤ日本ノ政事家モ戰費ノ計上ニ

於テ漸ク逡巡ノ色アリトハ當地ニ行ハルヽ所ノ意見ナリ
日本政府ノ首相ガ露國ニ於ケル財源ノ豊富ナルニ論及シ
タルモノハ是レ開戰以来當地ニ於テ時々唱ヘラレタル言
論ノ反響ニ過ギズシテ實ハ米人中日本ニ対シ最モ深厚ノ
友情ヲ有スル人士モ尚此説ヲ唱ヘシナリ最初ハ米國ノ悲
觀論者モ一般世人ト等シク日本ノ海上及陸上ニ於ケル初
期ノ赫々タル成功ニ眩惑シテ復タ悲觀ノ言ヲ放タザリシ
ガ近来其論ズル所ヲ聞クニ警告ノ調ヲ認ムルニ至レリ而
シテ又此際大隈伯ノ演説ニ接シタレバ之ヲ讀ム米人ノ眼
中ニハ恐ラク此悲觀論ノ的確ナルヲ證スルモノヽ如ク映
ゼシ若シ夫レ首相演説ノ電文ガ其演説ノ全豹ヲ正確ニ表
明セルモノトシテ信ヲ措クニ足ルモノトスレバ察スル所
首相ニ於テモ日本國民ノ耐忍力ト國内ノ財源トニハ自ラ

一定ノ極限アルコトヲ認知セザルニハアラザルベク然レ

一定ノ極限アルコトヲ認知セザルニハアラザルベク然レドモ又其極限ノ到達スルヲ待タズ全然露國ヲ打破シテ復起ツ能ハザルニ至ラシムベシトノ考ヲモ抱懐スルヤ頗ル明白ノ事ナリト思惟セラル然レ𪜈是ハ日本ニ対シ最モ深厚ナル友情ヲ有スル米人ノ説ニシテ一般ノ實業家ニ至リテハ寧ロ露國ヲ以テ持久力ノ優レル者トシテ該國ニ放資セント欲スル者尠カラズ斯クノ如ク實際露國ノ信用ハ今日迄世界ノ金融市場ニ於テ日本ノ其レニ比シテ遥カニ良好ノ地位ヲ保チ來リシ所以ナリ

日本公使館員ノ説ニ據レバ旅順ノ陥落トクロパトキン統率軍ノ全滅トハ二者共ニ吾人ノ冷靜ニ期待スベキ事件ナルガ若シ果シテ其時期ニ達スルトキハ日本公債ノ價格ハ一躍奔騰スベク同時ニ露國公債ハ必然暴落ヲ來タスベシ是

シ實ニ日本ノ占メ得タル大々的戰捷ニ伴フ必然ノ結果タルヤ固ヨリ疑ヲ容レズト言ヘリ然リト雖モ此說ヤ日本ガ無期限ニ大戰爭ヲ續行スル能力ヲ有スルヤ否ヤニ関シ日本政府ノ首相ノ提起セル疑問ヲ動カスニ足ラザルモノナリ

大隈伯ノ演說

東京發ルーテル電報ニ據レバ大隈伯ハ昨日東京ニ於テ開催セシ全國手形交換所聯合會ノ席上ニ於テ演說セル際列席ノ人々ニ警告スルニ長期ノ戰爭ノ爲メニ宜シク準備スル所アルベキヲ以テシタリ而シテ伯ハ二年間ノ戰爭ニ於テ日本ハ二十億圓（二億磅）露國ハ三十億留乃至四十億留（三億磅乃至四億磅）ノ軍費ヲ要スベキヲ豫測シ且ツ露國ニ在リテハ公債ノ募集モ將又租税ノ增課モ既ニ極限ニ達シタル以上到底不可能ノ事ナリト斷ジ又日本ハ來年ニ於テ五億圓（五千萬磅）ノ軍資ヲ借入ルヽノ必要アルベシト豫告セリ而シテ若シ日本ガ一億五千萬圓（一千五百萬磅）ノ外債ヲ募集スルコトヲ得ルトスルモ其時ニ當リテ公債証書其他有價証券ノ時價ハ必ズ低落スルヲ免レズ

ト言ヘリ是ヲ以テ伯ハ全國民ニ向ツテ深ク意ヲ國力ト財源ノ涵養ニ注ガンコトヲ勸告シ且ツ終極ノ勝利我ニアルハ余ノ深ク信ジテ疑ハザル所ナリト論結セリ

又大臣（大隈伯ノ誤）ハ其演説ノ間ニ述ベテ曰ク露國政府ノ腐敗ハ軍政行政及財政ノ各省ニ深ク浸入シテ殆ンド其極度ニ達シ革命ノ機漸ク熟セントスルモノヽ如シト而シテ又日本ハ此露國ノ弱点ニ乘ジテ多クノ勝利ヲ得タリト雖モ露國ハ其短所ノ存スルニモ拘ハラズ尚依然トシテ歐洲ノ覇權ヲ掌握シ來リタルモノニシテ独逸皇帝スラ露帝ノ一顰一笑ニ喜憂ヲ為シテ其歡心ヲ得ツヽアルニ非ズヤト説破シタリ更ニ又進ンデ曰ク露國ハ種々ナル弱点ヲ有スルニ拘ハラズ其財源ハ無限ニシテ且ツ國土人口及富力ニ於テ莫大ノ利益ヲ有スルモノナルガ故ニ日本國民ガ

最終ノ目的ヲ達セントセバ必ズヤ多大ノ犠牲ヲ供セザル可カラズト

[illegible]對スル「ゲロリブ所ノ評論[illegible]

大隈伯ノ演説ニ対スル「グローブ」新聞ノ評論

今回東京ニ開カレタル全國手形交換所聯合會ニ於テ昨日大隈伯ノ演説アリタルガ是レ實ニ伯ノ説明セントシタル財政上ノ状態ヨリモ寧ロ他ノ見地ヨリシテ欧洲ノ注意ヲ惹クノ價値アル卓説ナリトス即チ伯ハ少クトモ二ヶ年間ノ戰争ヲ豫測シテ日本ガ約二億磅ノ軍事費ヲ要スト算定セリ而シテ此算定タルヤ伯及伯ノ聽衆ガ全國ニ過度ノ苦痛ヲ與ヘサル負担額ナリト承認セシ所ノモノナリ偖テ伯ノ算定ノ巨大ナルト其之ヲ言明セル態度ノ快活ニシテ崇高ナルハ結局日本ハ一小國民ニシテ其一時ノ戰捷ハ只僅カニ少数臣民ノ武勇ニ因ルノミトノ普通ノ觀念ヲ打破スルニ足ルベシ日本ノ軍隊ハマッカビース（古代ノ猶太人）及瑞西人

日本銀行

ト比較セラレタルコトスラアリキ然レ𪜈若シ此比較ニシテ以上三國民ニ共通ナル武勇ノ外ニ出デンカ是レ全然誤謬ナリト謂ハザルベカラズ若シ又佛國ガ露國ト交戰シツヽアリトセンニ世人ハ佛國ヲ指シテ「憐ムベキ剛膽ナル小佛民ナルカナ」ト言フベキカ而カモ日本ハ人口ニ於テ佛國ト伯仲スルヲ知ルヤ知ラズヤ然リ而シテ縱シ日本ガ佛國ノ如キ其國人ノ勤儉ニ由リテ以テ得タル豐富ナル財源ヲ有セザルニモセヨ公債募集ノ協約ヲナスニ當リテ恐ラクハ何等ノ困難ヲ感ズルコトナカルベシ日本ハ財政ニ於テモ軍事ニ於ケルガ如ク一種ノ奇才ヲ有スル國民ニシテ其軍隊ノ教練ノ如キ純然タル貨幣ヲ以テ測定セラルベキ一分子タルヲ記臆セザルベカラズ日本ノ如ク僅少ノ經費ヲ以テシテ尚能ク巧ニ軍隊ヲ教練シタル國ハ未ダ嘗テ之

アルヲ聞カズ然リ而シテ露國ヲ以テ日本ニ比セバ其軍費ヲ要スルコト二ニ対スル三ノ割合ナリトノ大隈伯ノ算定ハ真ニ誇張ノ説ニアラザルナリ次ニ又兵員ニ就キテ之ヲ論ズルトキハ日本ニ在リテハ各個人ノ優否如何ノ点ハ今暫ラク措キテ問ハザルモ恐ラク欧洲ノ一邦ニ於ケルヨリモ人口ニ比シテ遥カニ多数ノ人員ヲ徴募スルコトヲ得レ而シテ又精細ナル計算ニ據レバ日本ガ今後数年間ヲ通ジテ少クトモ軍務上有用ナル多数ノ人員ヲ戦地ニ送ルコトヲ得ベシト云フ彼ノ演説ノ餘談中ニ大隈伯爵ノ如キ地位ノ士人ニシテ猶且ツ故ラニ独逸皇帝ガ露帝ノ一顰一笑ニ喜憂ヲ為シテ其歓心ヲ得ント欲スルノ意アルニ論及セシコト又大ニ注目スベキ事ナリトス

日本銀行

十一月十日発刊ノ「グローブ」新聞ハ日本財政ノ強固ト題シ左ノ如ク論ゼリ

セントピーターズボルグ及モスコー両市ニ於テ刊行セラルヽ新聞中有力ナルモノヽ紙上ニ屡々現ハルヽ記事ヨリ判ズルニ露国政府ハ露国ニシテ持久ノ策ヲ固執スルニ於テハ日本ノ財力ハ為メニ消尽シ遂ニ和ヲ請フニ至ルベシト信ズルモノヽ如シ然ルニ先般日本政府ノ発行セシ第三回内国公債募集ノ結果ヲ見ルニ同国財力ハ容易ニ消尽ノ模様ナシ其利子ハ年五分ヲ出デザルニ当リ応募額ハ忽チニシテ三倍以上ニ達セリ露国ハ果シテ斯ル条件ヲ以テ内国債ヲ募集シ得ベキヤ否疑ヒナキニハアラズ兎ニ角露国ガ未ダ巨額ノ内債募集ヲ企テシコトナク同国政府ハ寧ロ

日本銀行

外債策ヲ選ベリ故ニ財政ノ破綻ハ日本ヨリモ速ニ露國ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得ン同國ハ過去三四ヶ月間ニ於テ續々紙幣ヲ増發セシヨリ見ルモ幾分カ此説ノ真ナルヲ知ルベシ又日本ノ外國資本家ニ訴フルノ額ハ甚ダ多カラザルモ今ヤ露國ハ伯林及巴里両市ニ於テ五千萬磅ノ公債ヲ發行セシコトヲ勉メ居レルニ際シ日本政府ノ英米両國ノ資本家ニ訴ヘシ高ハ千二百萬磅ヲ出デザルモ日本公債ノ賣出日ヲ来週ノ月曜日ト定メシヲ以テ日本政府ハ其日ニ旅順口ノ陥落ヲ熱望セリト推想スル~~ノ要ナシ~~コトヲ得ベク勿論旅順口ノ陥落ハ公債發行ニ非常ノ好都合ヲ與フベク又其引受銀行ハ之ガ機會ヲ利用スルニ怠

ラザんベシ

日本銀行

日本銀行

本年十一月十七日發刊ノ倫敦タイムス紙上ニ左ノ記事ヲ
高橋日本銀行副總裁ハルーテル社ノ特派員ニ左ノ件ヲ
公表スヘキコトヲ求メタリ
去十一月五日ニ予トルーテル社ノ代表者ト會談セシコトハ翌日
ノ新聞紙上ニ於テ公ニセラレタル所ナルカ之ニ関シテ多少誤解
ヲ生シタルカ如シ即チ其一ハ来年度ニ於ケル軍事費ノ豫算ニ関
スルコト是ナリ其豫算ノ数額ニ至リテハ予ノ保証スル限リニ
非ス是ハ實際東京發ノルーテル電報ニ據リタルモノニシテ予
ハ單ニ之ヲ正確ナルモノト假定シテ二三ノ觀察ヲ試ミシニ過
キサルナリ其ノ二ハ日本政府ニ外債ヲ募集セントスル意志
アルヤ否ヤニ関スルコト是也或ハ邊ニ於テ外債募集ノ協
約カ實際進行中ナルニ際シテ予ハ故意ニ之ヲ否認シタリト

日本銀行

ノ説ヲナスモノアレド是レ全然無根ノ架説ナリ日本政府ガ去十月ニ於テ公債ノ募集セントスル内意アリシハ事実ナレド北海暴行事件ヲ生ズル重大ナル紛擾ヲ慮リテ公債募集ニ関スル手続ヲ放擲スルニ至レルモノナリヘーテル社ノ代表者ガ今談ノ為メニ本邦ヲ来訪セシハ正ニ此時ニ在リテ当時吾人右ノ事情ニヨリ募債ノ問題ニ接触スルヲ好マザリシモ亦当然ノ事ナリトス然リト雖ドモ日本政府ガ外債ヲ募集スルヤ否ヤノ質問ニ接シテハ吾人ハ実ニ之ニ答フルニ否トスルノ外ナカリシ而モ是レ吾ノ実際與ヘタル答ナリキ去五月ニ募集シタル公債ノ収納金中甚大部分ハ現在尚倫敦ニ於テ日本政府ノ手中ニ存セルガ差当リ外資ヲ借ルノ急要更ニ之ナカリシハ充分信ジテ疑フベカラザル事ニ属ス只日本政府ニ於テ来年度ノ軍資ヲ供給センガ為メニ公債募集ノ好

時機ヲ擇ブノ要アリシノミ是レ弟ハ日本トシテ資金ヲ要スル場合ニハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ調達シ得ザル恐ナシト極言シタル所以ナリ然リ而シテ日本政府ハ再ビ公債募集ノ前議ヲ決シ其結果今回ノ発行ヲ見ルニ至リタルハ右会談ノアリシ後ノ事トス

evidence.

JAPANESE FINANCE.

Mr. Takahashi, vice-president of the Bank of Japan, requests Reuter's Agency to give publicity to the following statement :—

Some misunderstanding seems to have arisen concerning the interview which Reuter's representative had with me on November 2, and which was published in the papers of the following day. First, as to the estimates of expenditure for war purposes during the next fiscal year; I am not responsible at all for the reported figures. These were, in fact, taken from a Reuter telegram from Tokio, and I simply made some observations upon them, on the assumption that they were correct. Secondly, as to the intention of the Japanese Government with regard to the issuing of a foreign loan; the suggestion made in some quarters that I volunteered a denial of the loan negotiations when they were actually taking place is wholly baseless. The fact is that the Japanese Government contemplated issuing a loan in October, but abandoned the proceedings connected with it in view of the grave complications arising out of the North Sea outrage. It was just at that time that Reuter's representative came to me for an interview. In the circumstances, I naturally did not like to touch the question of the loan. But when I was asked whether the Japanese Government were about to issue a foreign loan I could but answer "No," and this was the answer I gave. It is perfectly true that the Japanese Government had still in hand, in London, the greater part of the loan raised last May, and that there was no immediate need for borrowing abroad. But the Government were to choose a favourable moment for bringing out a loan in order to provide for the next fiscal year. I emphasized, therefore, that, in any case, we had no fear that Japan would not be able to obtain all the money she wanted. It was after the interview that the Japanese Government decided to resume steps which have resulted in the present issue.

日本銀行

日本銀行

理財局銀

銀行時報

第五十三號

明治四十四年三月二十日

三十六年度 三十七年度 募集額地方別表（自一月至十月）

府県名	三十六年度 人員	三十六年度 金額	三十七年度 人員	三十七年度 金額
東京	三、一一二	一、六八三、一〇〇	二、二五〇	一、〇四四、六〇〇
京都	六六六	二八三、九〇〇	三九五	一〇九、三〇〇
大阪	一、三七〇	四六九、八〇〇	七〇一	二〇九、三〇〇
神奈川	四三三	一五五、四〇〇	四〇五	一七九、六〇〇
兵庫	三九七	一二七、九〇〇	三九〇	一二五、七〇〇
長崎	六八六	一六六、一〇〇	三六一	一三七、一〇〇
新潟	五七〇	一七九、九〇〇	三六一	一六四、七〇〇
埼玉	三四二	一五七、八〇〇	二六八	一二〇、七〇〇
群馬	五五〇	一七八、〇〇〇	三〇八	一〇〇、〇〇〇
千葉	二二五	二二一、四〇〇	一四一	九六、〇〇〇
茨城	一六八	七九、六〇〇	七六	五一、〇〇〇
栃木	三九八	二二一、一〇〇	一〇九	三六、九〇〇
奈良	一九九	四八、三〇〇	三二	一〇、四〇〇
三重	一九七	一〇八、三〇〇	三三〇	一一三、一〇〇
愛知	八五六	二七四、九〇〇	五六四	一八二、三〇〇
静岡	六〇三	一六二、四〇〇	三五九	八四、四〇〇
山梨	二四四	八八、六〇〇	一六二	六〇、二〇〇
滋賀	四六一	一六三、一〇〇	二四七	八四、二〇〇
岐阜	二六七	三一、七〇〇	一六六	七三、一〇〇
長野	三三〇	一三四、六〇〇	一三五	八六、六〇〇

帝國生命保險株式會社

福島	九一	一六四、〇〇〇	一〇六	二一、四〇〇
宮城	二八七	一四二、九〇〇	一三〇	八一、四〇〇
岩手	一九八	八八、〇〇〇	一一三	六一、五〇〇
青森	一八五	一〇二、四〇〇	一一四	八〇、八〇〇
山形	二五七	一二二、五〇〇	二四七	一二五、三〇〇
秋田	三五〇	二〇〇、五〇〇	一三六	六二、九〇〇
福井	二二一	七五、九〇〇	二〇五	六五、三〇〇
石川	六三三	二〇四、九〇〇	二三五	八八、〇〇〇
富山	一八七	四七、八〇〇	一八三	五八、九〇〇
鳥取	八九	四五、八〇〇	三二	三一、八〇〇
島根	六六	二六、四〇〇	一三二	五一、一〇〇
岡山	二九五	九五、〇〇〇	二三二	九一、一〇〇
廣島	七五八	四〇〇、〇〇〇	四四四	二三一、九〇〇
山口	六五三	二六三、三〇〇	一六七	八二、一〇〇
和歌山	五八四	一四八、三〇〇	三〇〇	一四〇、一〇〇
徳島	一三四	四五、四〇〇	五〇	一二、六〇〇
愛媛	四六九	一五五、一〇〇	一六七	四六、五〇〇
香川	〇	〇	七六	二九、一〇〇
高知	一三	四、二〇〇	一九七	八〇、五〇〇
福岡	八一一	四四七、〇〇〇	八五一	三七〇、二〇〇
大分	一八七	六二、五〇〇	四九	一六、一〇〇
佐賀	八〇	三九、五〇〇	一六〇	六〇、六〇〇
熊本	二三八	九五、六〇〇	二三五	八〇、七〇〇
宮崎	七八	四五、三〇〇	一〇一	三五、五〇〇

帝國生命保險株式會社

鹿児島	六〇	三一、五〇〇	九九	六〇、四〇〇
北海道	三九〇	一八一、六〇〇	五六五	二七〇、七〇〇
沖縄	一四	六、九〇〇	〇	〇
韓國	二三〇	一一六、四〇〇	一〇四	八二、四〇〇
臺灣	四三五	三四三、九〇〇	七六六	五九〇、〇〇〇
合計	五八五六	八、五八八、五〇〇	一三八八九	五、四五八、五〇〇

帝國生命保險株式會社

帝國生命保險株式會社

目論見書

露西亜帝國政府

千九百五年四分五厘利附露國無記名公債

額面

独貨　五億馬克

露貨　二億三千百五十萬留

蘭貨　二億九千四百萬グルデン

英貨　二千四百三十七萬五千磅

千九百十七年ニ至ル迄ハ償還ヲ為サス且ツ同年ニ至ル迄露國政府ヨリハ支拂通知ヲ發スルコトナシ

本債券所有者ハ其所有券ニ對シテ露暦千九百十一年一月一日及仝年七月一日並ニ千九百十四年一月一日及仝年

七百擬定價格ヲ償還請求ヲ為スノ権利ヲ有ス

千九百四年十二月廿八日（露暦十五日）ノ露西亜皇帝ノ勅令ニヨリ大蔵大臣ハ戦争ノ為メ國庫ノ準備金ヲ増加スルノ目的ヲ以テ四分五厘利附公債額面露貨二億三千百五十萬留ノ独貨五億万馬克ノ蘭貨二億九千四百萬ゲンデンノ英貨二千四百二十七萬五千磅ヲ発行スルノ命ヲ受ケタリ

本公債ハ國債原簿ニ「千九百五年四分五厘利附露國公債」トシテ登録ス

本公債ハ

独貨五千馬克ー露貨二千三百十五留ー蘭貨二千九
百四十ギルデンー英貨二百四十三磅十五志
独貨二千馬克ー露貨九百廿六留ー蘭貨千百七十
六ギルデンー英貨九十七磅十志
独貨千馬克ー露貨四百六十三留ー蘭貨五百八
八ギルデンー英貨四十八磅十五志
独貨五百馬克ー露貨二百三十一留五十哥ー蘭貨二百
九十四ギルデンー英貨二十四磅七志六片

ニ分チ且ツ
第一号ヨリ第三万号ニ至ル三万枚ハ五千馬克券
第三万一号ヨリ第十二万号ニ至ル九万枚ハ二千馬克券
第十二万一号ヨリ第二十六万号ニ至ル十四万枚ハ千馬克券
第二十六万一号ヨリ第三十二万号ニ至ル六万枚ハ五百馬克券

二区分ス
三十個ノ毎半季分ノ利札及新利札請求書ヲ附シ又本公
債證書ハ之ヲ無記名トス但シ他ニ定ムル規定ニ從ヒ之ヲ記
名トシ又之ヲ再ヒ無記名ニ書キ換ルコトヲ得本公債證
書ハ露西亞、獨逸及ヒ英國ノ國語ニテ記載シ帝國公債償
還局之ニ署名シ且ツ監督局長其氏名ヲ手書ス
本公債ノ利子ハ年四分五厘ノ割合ニテ毎半年露暦一月
一日及ヒ七月一日ニ於テ之ヲ支拂フ利子ノ計算ハ露暦千九
百五年一月一日ヨリ之ヲ始ム
本公債ハ千九百八十五年ニ至ル迄ノ間ニ於テ悉皆之ヲ償
還スルモノトス但シ露西亞帝國政府ハ露暦千九百十七年一
月一日ニ至ル迄ニ於テ抽籤、償還ノ豫告若クハ借換ヲナシ
之ヲ償還スルノ方法ヲ定ムルノ權利ヲ留保ス千九百十七年以

後ニアリテハ露西亜帝国政府ハ豫告ニ因リ本公債ノ全部ヲ償還シ若クハ借換ニ因リ之ヲ償還スルコトヲ定ムルノ権利ヲ有ス

本公債證書ノ所有者ハ露暦千九百十二年一月一日ニ於テ額面金額ニテ支払ヲ請求スルノ権利ヲ有ス償還請求ヲナシタル證書ニ対シテハ露暦同年七月一日ニ於テ支払ハルヘキモノトス償還ノ請求セシトスル者ハ遅クトモ露暦千九百十一年一月一日迄ニ公債償還所ノ一ニ本公債證書ヲ呈出スルヲ要ス呈出シタル證書ニ対シテハ償還請求ヲ受諾スル印章ヲ押シ管理官之ニ其氏名ヲ手書シ呈出者ニ之ヲ返附ス

該證書記載ノ金額ハ償還請求ヲナシタル場所ニ於テ支払ハルヘキモノトス

露暦千九百十四年一月一日ニ於テ償還ヲ請求スル者ニ対シテ

モ日ヨリ四年七月一日ニ於テ額面金額ヲ以テ償還スルノ權利ヲ賦與ス此場合ニ於テ必要ナル諸形式ハ前ノ場合ト同一トス

本公債ノ濟崩償還ハ千九百十七年ヨリ毎年抽籤ノ方法ニヨリ之ヲ行フ濟崩償還ノ割合ハ毎年西暦千九百十七年一月一日ニ於テ支拂請求ノ豫告ヲナシテ流通セル本公債ノ額面金額ノ二分二厘六毛七〇五トス年々公債ノ償還ニヨリ生スヘキ利子ノ剰餘ハ抽籤ニヨリ償還スヘキ公債償還額ノ中ニ加フ

抽籤ハ毎年西暦四月一日ニ於テ之ヲ行フモノトシ第一回抽籤ハ西暦千九百十七年四月一日ニ於テ之ヲ行フ當籤シタル公債證書ニ對シテハ抽籤後第一ニ到達スヘキ利子支拂日ニ於テ償還セラルヘキモノトス

當籤シタル各證券及ヒ既ニ當籤シタルモ未支拂ノ爲メ呈示セラレサル證書ノ番號ハ露國發行ノ新聞紙伯林發行ノ二

新聞紙　フランクフルト、アム、マイン、アムステルダム及ヒ倫敦発行ノ各一新聞紙上ニ之ヲ廣告スヘシ尚此外獨逸ニ於テ発行シ蓋キ各地ニ普及セル新聞紙中貴國大藏省ニ於テ適當ト認ムル三新聞紙上ニモ之ヲ廣告スヘシ

償還スヘキ公債證書ニ殘存セル利札ハ總テ其額面全額償還ノ際之ヲ添附セシム未拂利札中紛失セルモノアル時ハ其總額ヲ償還スヘキ公債額面全額中ヨリ除去ス

本公債ニ係ル權利ハ其償還期日後三十年ヲ經過スル時ハ時効ニヨリ消滅ス利札ニ係ル權利ハ滿期後十年ヲ經過スル時ハ時効ニヨリ消滅ス

利札並ニ抽籤セル證書若クハ支拂豫告ヲ受ケタル證書ノ償還ハ該證書所有者ノ撰擇ニ從ヒ各證書面ニ記載セル金額ヲ貴國ニ於テハ円價（一円ハ二ペリアルノ十五分ノ一）伯林及

フランクフルト、アム、マインニ於テハ独逸帝国本位貨ナル馬克
アムステルダムニ於テハ和蘭グルデン貨、倫敦ニ於テハ磅貨ヲ
以テ之ヲ償還スルモノトス償還所ハ左ノ如シ

聖彼得堡ニ於テハ露西亜帝国銀行

伯林ニ於テハメンデルスゾーン銀行

〃 〃 エス、ブライヒレーデン銀行

〃 〃 割引銀行本店

〃 〃 伯林商業銀行

以上ノ償還所ニ於テハ新利札ヲ無手数料ニテ発行交附ス
利札ノ支払及公債ノ償還ニ充ル所得金ニ対シテハ永久露
国ノ租税ヲ免除セラルヽモノトス
本公債証書中未ダ償還セザルモノハ露西亜帝国政府トノ
間ニ担保ヲ供スヘキ必要アル契約ヲ締結スルニ際シ之ヲ担

保トシ及ヒ法規ニ從ヒ手數料ノ保證トシテ之ヲ提供スルコトヲ得

所有者ハ其有スル權利ニ基キ公債ノ償還請求ヲナスモ償還期ニ達セサル間ハ前記ノ特權ヲ有ス

本證券ノ作製スルニ至ル迄伯林ニ於テハ伯林ノ發行所ニ於テ發行シ帝國印紙ヲ貼用シタル假證券ヲ交附ス之ヲ本證券ト無手數料ニテ交換スルニ必要ナル詳細ノ手續ニ關シテハ別ニ之ヲ廣告ス假證券ニハ千九百五年七月一日滿期ナル利息支拂所ニ於テ支拂フヘキ利札ヲ附ス本證券ハ千九百六年一月一日及其以後ノ利札ヲ附シテ發行ス

聖彼得堡千九百四年十二月廿九日（露暦十六日）

露西亜帝國大藏大臣

日本銀行